

医学・医療行政で活躍されている先生にうかがう

第2回 大学院医学研究科FDワークショップ 第107回 医学教育ワークショップ

日本大学大学院医学研究科では、教員の教育研究能力を組織的に向上する取り組みを行っています。本大学院FDは、学生自身も参加する形で、学内外から研究に関する情報収集や戦略について研修する機会を持つために計画されました。

第2回は、本学の若手研究者2名に公的研究費獲得による研究の実際について問題提起を行い、厚生労働省 老人保健課長 鈴木健彦先生に厚生労働省における研究事業や医療行政について政策立案サイドからお話しいただきます。

鈴木健彦先生は、本学を平成5年に卒業され(66回生)、一貫して厚労省で医学・医療行政畑を歩まれてきました。これに加えて、文部科学省研究振興局ライフサイエンス課では、先端医学研究の企画立案にも力を発揮されました。本学出身者として、広く医学・医療行政分野で将来の発展を期待されている先生です。

公的研究費の獲得は、大学院教員の教育研究能力向上に重要であるだけでなく、大学院生にとっては将来の教育者・研究者としてのキャリアパスを展望するのに大きく役立ちます。研究プロジェクトについて企画立案のサイドからのお話を伺うことは、若手研究者が発展するために大きなチャンスになると思います。

皆様ふるってご参加下さい。

日時：2018年3月14日18時～19時30分

**事前申込不要
参加費無料**

場所：リサーチセンター4階ホール

**対象：医学部専任教員，大学院担当教員，
専修医・専修指導医，専修研究員，ポスドク，研究員，
若手研究者，大学院生，学部学生**

1. 若手研究者から情報提供：

- (1) 不破 一将 小児科学分野
『臨床研修と基礎研究の両立の難しさ』
- (2) 鈴木 正泰 精神医学分野
『研究予算の適正な使い方についての苦労』

2. 特別講演：『厚生労働行政と科学研究費』

鈴木 健彦 厚生労働省 老人保健課長